

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第57号
令和7年(2025年)
4月1日 発行



花が織りなす春のアート（大阪市東住吉区、長居公園）

一流大学？勿論入れた方がいい。一流企業？勿論入れた方がいい。ただ息子よ。父いま酔ってる。酔ってるが言いたい。人の不幸をちゃんと悲しむ。人の幸せをちゃんと喜ぶ。そっちの方が、遥かに、遥かに尊い。（佐藤二郎 X旧ツイッター）投稿より抜粋）

人の悲しみを自分の悲しみとし、人の喜びを自分の喜びとして引き受けられる心が阿弥陀さまの大慈悲心です。佐藤さんの言葉はまるで仏さまのお心を代弁しているように聞かれます。

しかし、私は人の喜びを喜びながらもうらやんだり、人の悲しみを自分事として捉えきれず寄り添えないこともあります。佐藤さんの言葉を通して阿弥陀さまのお心を聞けば聞くほど、どこか他人事として生きている自分自身の姿を見せつけられます。

そしてそのような身を抱えて生きている私だからこそ阿弥陀さまの大慈悲心が包んでくださっていることに気づかされるのです。

（玉出宗順）

と う ひ が ん 到 彼 岸



死を通して死に向き合う

最勝寺 なかい しょうりゅう 中井 翔隆

二年前に祖母が亡くなり、当時三歳だった私の娘は初めてご遺体となった人を目の当たりにしました。最初は、「まだ寝ているの？いつ起きるの？」と聞いてきましたが、もう二度と目を覚ますことはないということを理解してから、「私もいつか死んじゃうの？」と聞かれたので、「みんないつかは死んじゃうんだよ」と答えました。「そうなのならもうお友だちとも遊べない。そんな

の嫌だ」とポロポロと泣き出す娘。出来れば死にたくない、元気で長生きしたい。誰もがそう思うことでしょう。しかし、必ず訪れる「死」。いつかは「死」を迎える身であるということに、不安になり、苦しみを感じてしまします。

私たちにあって、生まれてから死を迎えることだけが苦しみではありません。生まれてきた以上、老いていく苦しみ、病になる苦しみ、「生老病死」の四苦を抱える身ですが、私たちは一体何に一番苦しんでいるのでしょうか。それは、「生老病死」のどれ一つとして、自分の思い通りにならないにもかかわらず、何とか自分の思い通りにしたいというところに、私たちは、苦しみを感ずるのではないのでしょうか。

「生老病死」を超える道

阿弥陀如来は、そんな迷いの身であ

る私こそ救うぞと願われていますが、その願いによって私たちから苦しみが取り除かれるということではありません。阿弥陀如来の救いは、私たちの「いのち」のあり方を明らかにした上で、「生老病死」の身である私が抱える苦しみと共に歩ませようとすることです。苦しみと共に歩むとは、私にとって都合の悪い苦しみを排除したい生き方から、その苦しみを引き受けていく生き方への転換です。

娘の素朴な「死」に対する思いは、私たちが持つ悩みそのものです。何一つとして私の思い通りにはならないけれど、そんな悩める私が、すでに私の思いを超えた「いのち」を賜っている事実気付いたところに「生老病死」を超える道、まことの歩みが始まっていくように感じます。



如にょ是ぜ我が聞もん

今あるいのちの救い

滋賀南教区 光明寺 片岡慶正師

かたおか けいしまつ



令和六年十二月三日、大阪 別院で法友会研修会が開催され、光明寺住職の片岡慶正師（大津市民病院名誉院長）より「今あるいのちの救い」をテーマにお話しいただきました。

生老病死と医療

社会の中で医療に対する信頼は非常に高いのですが、生老病死を克服することは絶対にできないものです。実は医療は不確実なものであるというところからお話しいただきました。日本人の平均寿命は

世界の最上位ですが、幸福度

ランキングでは日本は世界の

51位なのです。国民は長生き

が幸せとは思っていないので

す。その背景には、若者の孤

独感や中高年の老後の不安な

どがあげられます。

医療の分野では「不老不死」

を手にすることが願われてい

ます。がん治療・遺伝子治療・

人工臓器など老病死と闘う医

療は進歩しましたが、かえっ

て「自分だけは助かりたい、

死ぬはずがない」という我執

が拡大し、医療現場を苦しめ

ているといえます。

他方、終末医療や在宅看取

りといった、老病死を受け入

れる医療も求められています。

対治と同治

病気を敵として人は健康で

なければならぬ、とにかく

頑張れという「対治」的治療

で死を迎えるということにな

ると「残念・無念」な結果に

終わります。

仏教的には、病気はともに

ある、人はそもそも何らかの

病人であると共感し支える「同

治」という視点で、結果とし

ての死を「感謝」の思いで受

け止めることができるのです。

泣きながら生まれてきた自分

が笑いながら死ねるか、社会

全体が問われてきていると指

摘されます。

死して喜べる死、感謝の死

を「寿」とよんだ。寿命の寿

という意味を忘れて「命」だ

けを求めている傾向ではない

かと強調されました。

聴聞して

医学が進歩しても、煩惱は

限りなく、より良い医療を求

めて止むことがない。そうで

あるから、ますます今いただ

いているわが身、この命は有

限であることに目覚め、感謝

の念を持って生きることが大

切だと知らされました。

（長田 謙 記）

大阪探検

さかい利晶の杜



さかい利晶の杜の外観



観光案内展示室



タイムトリップ堺でVRを体験



(隅谷俊紀)

と開始時刻は左記のQRコードよりご確認ください。

堺市堺区宿院町西にある「さかい利晶の杜」は、堺ゆかりの千利休と与謝野晶子をテーマに、堺の特色ある歴史文化を広く発信する文化観光施設として2015年にオープンしました。

館内は、「千利休茶の湯館」「与謝野晶子記念館」「茶の湯体験施設」「企画展示室」「観光案内展示室」などからなっています。ここでは日に4回、観光ボランティアガイドの案内があり、約50分かけて館内を丁寧に説明していただけます。

茶道体験

「茶の湯に触れてみたい」という方は、気軽にあるいは本格的に体験することができます。

イス席で抹茶と堺の和菓子を楽しむ「立礼茶席」

や、本格的な茶室で茶の湯の作法やお茶を点てる「茶室お点前体験」(ともに要予約・有料)があり外国人にも人気があります。

VRで中世の堺を知る

さらにVR体験「タイムトリップ堺」(有料)では、中世の堺の町並みが立体映像で詳細に再現されていて、最新型ゴーグルをかけ、自由な角度から当時の堺を眺めることができます。

また、総合受付付近にあるグッズショップ「さかい縁庵」には、堺の和菓子、お茶、線香などの堺みやげが販売されています。

学び、体験し、いただき、堺を肌で感じとったひと時でした。

なお、アクセス、開館時間、各種体験の料金

ごえんさんを訪ねて

ほうりんじ 宝林寺 (東大阪市) 向井 公夫 住職



東大阪市の宝林寺は江戸時代に建立された閻法道場を起源とし、本山佛光寺から寺号の御免状が下付された延宝2年(1674)年を始まりとする寺院です。

波乱万丈の350年

明治18年に寺を襲った明治大洪水で倒壊は免れましたが破損がひどく、今でも寺に現存する古文書には泥水の汚れが残り苦難の歴史を象徴的に伝えています。大水害により法要仏事をお勤めできる状態でなくなり、まったく寺として機能せず、住職不在の時代もありました。

苦難の時を経て

大正7年流行感冒に罹り11代住職が若くして亡くなり、坊守が12代目となりお針仕事をしながら寺を守られました。その後ご子息が13代目を継ぎ、戦後の復興にともなって宝林



宝林寺本堂

寺も教化活動が活発に行われてましたが、13代住職は42歳の若さで亡くなりました。そんな悲しみのなか80歳をむかえた坊守が再度本山佛光寺から14代宝林寺住職を拜命されます。現在の向井住職はそんな苦労される母方の祖母を助け、学生のころから法務に携わるようになります。そして昭和32年得度、昭和41年に第15代住職に就かれました。

ただ感謝して次へと繋ぐ

現住職の代になり、本堂内外修復

改装をされました。宗祖親鸞聖人750回大遠忌法要も盛大に厳修され、綺麗な花模様を描かれた内陣の格天井、金障子に改装されました。昨年は開創350年慶讃法要をお勤めになり、また梵鐘・鐘楼を建立され落慶法要を併修。寺門興隆を僧俗で慶ばれました。

「宝林寺の歴史は苦難の連続でした。今に繋げてくださった先達のご苦労にただただ感謝の思いです。今後、世の中はとも困難な時代になると思いますが、ますます宗教が我々に肝要となります。後に続く方々は念仏相続を大切に精進してほしいですね」と、87歳の向井住職は穏やかに話してくださいました。

(葦名彰)

■宝林寺(ほうりんじ)

〒577-0061

東大阪市森河内西1-22-41

電話 06-6782-7359

Fax 06-6782-7309

大悲トピックス

■大阪別院修正会

大阪別院では、毎年1月2日正午より修正会をお勤めしています。

今年も教区内寺院のご住職と若院さん、そしてご門徒の皆さんもお参りくださいました。

あるご門徒が、「二年の始まりに若いお坊さんの上手なお正信偈が聴けて嬉しかったです」とおっしゃってくださいました。

賑やかに修正会をお勤めできてありがたく思います。

(大阪別院輪番

葦名彰)



■法友会研修会

3月5日、大阪別院研修ホールにて「法話の現場」と題して、最勝寺住職・勝友会会長の中井賢隆布教使に講義を賜りました。

「布教」とは、教えをひろく流布することをいうが、その自身は自身がどう聞き、どういただいたかの告白であり、それは聴聞者に「伝える」のではなく「伝わっていく」ものであると自らの経験談を交えて丁寧に講義されました。

(葦名彰)

■さつき会研修会

2月18日、大阪別院にて「表と裏・当たり前を教えるお念仏」と題して東京・西徳寺の仲井真裕師よりご講義いただきました。

私の「いのち」が何一つ当たり前でないものの上に成り立っている事実気づき、今ある「いのち」をまっとうするには、お念仏に出遇うことが大切だとお話しいただきました。

(さつき会会長 中井秀子)

■懇志御礼

滋賀県大津市 専光寺様

真宗佛光寺派
如来寺
気がつけばいつも
お蔭さまのなか
芦屋市川西町8-6
住職 藤谷 信道

御本山  用達
株式会社 **川勝法衣店**
フリーダイヤル 0120-075-055
(〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入
電話(075)371-0367(代)
FAX(075)371-5088

創業100余年・お墓の専門店
石留石材株式会社
土日祝もご相談いただけます(8時~17時)
 **0120-53-5578**
■本社：大阪府藤井寺市津堂2丁目9番29号

和奏の会 翠笛会
寺院のイベントに邦楽(尺八・箏)出張演奏いたします。
曲目はリクエストできます。
事務局：阪南市新町 宝林寺
電話 072-472-1414
<http://homepage2.nifty.com/suiteki/>

お墓なんでも相談センター
永遠の想いを像に還るお手伝い
 **ヨシザワ**
株式会社吉澤石材工業所
フリーダイヤル **0120-49-1482**

浜屋は関西最大級のお仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の専門店です。
やすらぎの世界を創る  **浜屋**
通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル
お問い合わせお申し込み **0120-1616-94**
●受付時間/午前10時~午後6時30分

だいひ 絵日記

1月 2日 (木) 大阪別院修正会

1月 15日 (水) 大悲の会編集会議 (総会・第57号読み合わせ)

1月 28日 (火) 大悲の会編集会議 (第57号読み合わせ)

2月 13日 (木) 大悲の会編集会議 (第57号読み合わせ)

2月 18日 (火) さつき会研修会 ①

(表と裏・当たり前を教えるお念仏、講師：仲井 真裕 師)

3月 5日 (水) 法友会研修会 (法話の現場、講師：中井 賢隆 師) ②

3月 17日 (月) 大阪別院彼岸会 (布教：玉出 宗順 師)

3月 20日 (木) 大阪別院彼岸会 (布教：葦名 彰 師)

3月 23日 (日) 大阪別院彼岸会 (布教：隅谷 俊紀 師)

3月 25日 (火) 大悲の会編集会議 (第57号発送作業・第58号内容検討)

3月 26日 (水) 佛青懇和会研修会

(衣体作法<主に着用方法について>、講師：脇阪 義仁 師)

(法友会=住職会、さつき会=坊守会、佛青懇和会=青年会)



協 賛

佛青懇和会

大阪教区の青年会

(会長：松野正暁)

協 賛

さつき会

大阪教区の坊守会

(会長：中井秀子)

協 賛

法友会

大阪教区の住職会

(会長：善本和彦)

■誌面広告の募集 (『大悲』発行は広告によって支えられています)

企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきます。

1区画(55mm×40mm)、掲載1回につき5,000円です。

■定期購読の受付 (ご門徒の皆様方にもお渡しく下さい)

『大悲』の定期購読は、1部につき30円です(送料込)。10部単位でお願いいたします。

お寺の掲示板

不思議なご縁と言っが
不思議でないご縁が
どこにあるのか

お寺の掲示板

私は誰の世話にもならず
迷惑もかけずに生きてきた
という迷惑な人がいる

編集秘話

トランプ大統領。そのハッキリとした政策は、分かりやすさがあり、ある種の魅力を感じます。反面、そこから排除されるものも多数。大悲の原稿。分かりやすくと思いついた言葉選びをすることもしばしば。しかし、そのことで読み手に大切なことが伝わらなくなっていないか。いつも悩みながらの原稿作りです。(門川)

編集後記

以前「大悲の会」より『日めくり法語カレンダー』を発行しました。それ以降も『大悲』最終面に新たな法語を「お寺の掲示板」として掲載しています。編集者が1人で2つ考え、編集会議で皆から意見・感想をもらい修正し、投票の結果、一定の点数を得た法語を採用しています。が、最近は行き詰ってます……。(編集長・隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』 第57号(春号)
令和7年(2025年)4月1日発行 (発行部数2200部)
発行：大悲の会
事務所：佛光寺大阪別院内
〒558-0011 大阪市住吉区苅田6-11-24 電話06-6691-1362
郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」
ホームページ(HP) <http://daihi.org/> (ご意見・ご感想はHP内の「お問い合わせフォーム」より)

大悲の会
長田 譲(会長) 門川 崇志(監事)
隅谷 俊紀(副会長) 佐々木 太一
寿栄松 正頭(会計) 葦名 彰
玉出 宗順(会計) 中井 翔隆